

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

| |
|------------------|
| 一般社団法人 日本保育者未来通信 |
|------------------|

②施設・事業所情報

| | |
|------------------------------|--|
| 名称：南いくた保育園 | 種別：認可保育所 |
| 代表者氏名：小林ひかる | 定員（利用人数）： 90(94)名 |
| 所在地：〒214-0036 川崎市多摩区南生田3-2-7 | |
| TEL：044-712-4656 | ホームページ：http://minamiikuta-nursery.ed.jp/ |
| 【施設・事業所の概要】 | |
| 開設年月日：2018年04月01日 | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人紫峰会 | |
| 職員数 | 常勤職員： 19名 非常勤職員： 15名 |
| 専門職員 | 園長： 1名 看護師： 1名 |
| | 主任保育士： 1名 保育補助： 7名 |
| | 保育士： 1名 事務・用務： 2名 |
| | 園医： 1名 歯科医： 1名 |
| 施設・設備の概要 | 保育室： 5室 事務室： 1室 |
| | 乳児用トイレ： 2室 調乳室： 1室 |
| | 沐浴室： 1室 職員休憩室： 1室 |
| | 調理室： 1室 |

③理念・基本方針

| |
|---|
| <p>【保育理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 子どもの人権と自主性の尊重 • 保護者・地域との連携 • 園児と地域の子育て支援 <p>【保育方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 遊びを保育の中心に据え、子ども達の自主性や自発性を大切にする保育 • 思いっきり身体を動かし散歩や園外保育を十分取り入れた保育 • 子どもを中心に保育者と保護者が一緒に成長を喜び合える保育 • 縦割り保育や異年齢交流で思いやりの心を育てる保育 • 地域と関わりあって進める保育 |
|---|

④施設・事業所の特徴的な取組

【さまざまな動植物との触れ合いを大切にし、日ごろの保育の中に取り入れています】
園庭では、菜園やプランターでキュウリやトマト、トウモロコシや枝豆などさまざまな野菜を育てています。育てた野菜は収穫し、食育の一環としてクッキングに使用するなど、子どもたちの食に関する興味や関心につながっています。また、年長児を対象に、秋刀魚を子どもたち一人一人に一匹ずつ提供し、食べ方の指導等も行っています。
園庭ではウサギを飼育し、子どもたちが当番を決め、世話をしています。ウサギの世話を通して、動物をいたわる気持ちや命の大切さを学ぶ機会につながっています。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|--|
| 評価実施期間 | 2020年 8月 1日（契約日） ～ 2021年 3月 5日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 1回（ 年度） |

⑥総評

◇特に評価の高い点

【日ごろから話し合いの場を設け、子どもの興味や関心を実現できるよう取り組んでいます】

園では、日ごろから子どもたちの意見や、「～したい」という気持ちを十分に受け止め、活動の実現に結びつけています。お楽しみ会では、各クラスの子どもたち同士で話し合い、保育者が一人ひとりの意見を十分に受け止めることで、子どもたちの興味や関心の実現につながっています。一例として、子どもたちの発想から、自分たちが演じた劇を撮影し、上映会を実施することや、日ごろ廃材などを利用して制作したロボットなどを、コンビニエンスストア屋さんとして売ることなどが日々の保育の中で行われていることが挙げられます。さらに、夏祭りの際に、子どもたちとの話し合いから、共同制作として大きな竜を制作しました。制作された竜は、「運動会や発表会でも使いたい」という子どもたちの思いを受け止め、実現につなげました。

実現の背景には、乳児期から一人ひとりの気持ちをしっかりと受け止め、保育者との信頼関係を築いてきたことが挙げられます。そして幼児期に入り、信頼関係の土台をもとに、日ごろの活動の中に話し合いの場を積極的に設け、活動を実現してきた経緯があります。話し合いの中で、職員が一人ひとりの子どもたちの意見を十分に聴き、話し合われた内容が実現されてきたことを通して、子どもたちの中で、「話し合って実現する」という気持ちが養われていることが挙げられます。

【日ごろから地域との関わりを大切にし、地域の子育て支援に積極的に取り組んでいます】

園では、日ごろから民生委員との情報共有や区の公私立認可保育所が主催となり、0歳～就学前の親子を対象として実施されている、「ママとあそぼうパパもね」などに参加し、地域ニーズの把握に努めています。把握されたニーズとして、戸外で安全に遊べる場所の必要性や、室内で親子で遊べる場所が挙げられ、園庭開放や保育室内の開放、また図書の一冊貸し出しなどの実施につながっています。また、地域の子育て支援として、ふれあい遊びやどろんこ遊び、手作り玩具の制作やパネルシアターの実施などにも、積極的に取り組んでいます。さらに、園で焼き芋会を実施した際は、近隣の方に焼き芋を届けるなども行っています。

◇改善を求められる点

【研修や自己評価で得られた内容を園全体の自己評価につなげる取り組み】

園では、日ごろから園内研修として、グループに分かれ、子どもの人権について検討する機会を定期的に設けるとともに、キャリアアップ研修等の外部研修を積極的に受講する取り組みが行われています。また、毎月のカリキュラム会議では、園長、主任、各クラスリーダーが出席し各クラスの月間指導計画や保健計画、また行事の反省及び評価を実施し、次月の計画に反映させています。さらに、各職員は、年に1回の園長面談の際に、勤務姿勢、一般常識、園児把握、知識技術向上、保護者対応、コミュニケーション等の項目が設けられた、自己評価書の項目に沿って、職務に関する成果や貢献度等を評価しています。

今後は、研修や自己評価で得られた内容について、具体的な保育実践につなげ、定期的に職員間で共有し理解を深めていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

自己評価をする過程でも、日々の保育や運営の振り返りが出来た。また、利用者調査などで、率直な意見も伺うこと事が出来たので、今後の保育や園の運営に反映させて行くつもりである。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり